

オーディオとたばこの密なる関係



熱心なオーディオファンの間では、音楽を聴きながらのたばこは是か非かという問題がしばしば話題にのぼる。「精密機器が煙を浴びて良いわけがない。基盤回路がヤニだらけになってしまう」という絶対否定派に対し、肯定派が「昔のジャズ喫茶なんか煙が立ち込めていたんだから……ねえ」などと控えめに主張する。近ごろ、肯定派は分が悪いらしい。

「それでも自分の部屋のオーディオで、ジャズのレコードを聴きながらたばこを吸うのが、何よりの楽しみなんだ……」とある友人はいう。高価ではないが、自分の好みで集めた自慢のオーディオシステムが組まれた部屋にはソファアーム置いてあり、夫婦でくつろげるようになっていく。よく聴くのはサラ・ヴォーンなどの女性ポピュラー。奥さんの音楽の趣味も共通しているという。

それなら、いつもふたりでレコードを楽しんでいるの？ と尋ねると、友人は首を振る。

「いや、いつもひと。彼女はたばこを吸わない。においが嫌なんだ」

できれば一緒に聴きたいけれど……と、友人はさびしそうにいう。たばこを音楽と奥さんと。三つを共存させることはできないものか。友人は頭を悩ませている。

アウトドアの喫煙マナーに新発想



美しい紅葉を堪能しながら、仲間とともに山道を登り、ようやく山頂近くまでたどり着いた。見事な展望に歓声をあげつつ、大きく深呼吸……と、そこで、白い煙をくゆらすグループが目に入った。彼らがいるのは風上。においが風につけてやってくるので、無言で場所を移動した。私たちの仲間には非喫煙者ばかりだったのだ。

山頂の休憩所には喫煙スペースもあったので、彼らが悪いわけではない。数年前、屋久島の縄文杉登山道を、喫煙所をのぞいて禁煙とするルールが決められ話題となった。これがニュースになるほど、実は山での喫煙ルールはゆるやかな場合が多く、その分、喫煙者にはマナーとモラルが強く求められている。

山火事の危険もあるので、火の扱いには重かな注意が必要だし、吸い殻がイ捨てなど、もともと許されない行為だ。紙巻たばこのフィルターは、野鳥などが誤って食べると死んでしまうこともある。

同じ山を愛する者同士、喫煙者・非喫煙者の双方が、気持ちよく登山を楽しむにはどうすればいいのか。吸う人、吸わない人が、それぞれが納得することなく、同じ空間で自然を謳歌するための新発想が必要だ。



Point 1

部屋の空気をほぼ汚さない、壁をほぼ汚さない

たばこにおいては、葉を燃やすことで発生する。ニタールも同様、葉の燃焼にともない発生する。ブルーム・テックは、蒸気をたばこカプセルに通過させる「低温加熱方式」のため、いわゆる煙のにおいも十二も出ない。

そのため室内の空気もほぼ汚さない。J-Tの実験によると、ブルーム・テック使用前後で、空気中の浮遊粉じん濃度や一酸化炭素濃度、その他の物質については有意な増加が見られることはなかったという。

部屋で音楽を聴きながらのブルーム・テックならば、大切なオーディオ機器を汚すこともないし、一緒に音楽を楽しむ相手も、きっと不快にはならないはず。これからのライフスタイルに取り入れてみたい習慣だ。

Point 2

火を使わないから安全。使用後もクリーン

アウトドアでの喫煙スタイルのひとつとして、ぜひ取り入れてみたいのがブルーム・テックだ。

大きなメリットは火を使わないこと。ポケットから出してすぐに吸えて、吸い終わったままにしまっただけ。実に便利だし安全だ。ブルーム・テックは、ほんのちよつどの時間の「すきま吸い」ができるのも特徴で、キャンプの準備作業の合間などに使用できるのもいい。もうひとつのメリットが、使用後に灰が出ないこと。もちろん、たばこカプセルやカートリッジが切れたら交換しなければならぬが、小さなプラスチックパーツがごみとして出るだけで、おおいもない。ほかのごみと同じように持ち帰ればいい。自然環境にも優しいたばこなのである。